

Strix 9: 239-254 (1990)

折居彪二郎によるウトナイ湖の鳥類ほか観察記録

大畑孝二¹

はじめに

折居彪二郎(1883-1970)は、明治の末期から昭和の初期にかけて、北は旧日本領であった樺太・千島から満州・朝鮮、南はパラオ群島・マーシャル群島と、東アジア一帯をフィールドにした鳥獣採集家である。当時は「東洋のオリイ」として世界に知られていたようだが、現在は、あまり知られない存在となってしまった。折居彪二郎によるウトナイ湖の鳥類ほか観察記録を公表するにあたり、以下、彼の略歴を簡単に紹介する(小山 1986)。

折居彪二郎は明治16年新潟県に生まれ、家の事情により明治32年に函館に移住する。明治39年大英博物館の囑託採集員マルコム・アンダーソンの助手として、英国商人アラン・オーストンの採集員として、はじめて朝鮮半島での採集を行なった。この時の標本は大英博物館におさめられている。その後、中国山東省、千島、中国黒竜江省北部、樺太、中国雲南省で、明治44年までの間に採集を行なった。大正2年に函館より苫小牧村字植苗(現在の苫小牧市字植苗)のウトナイ湖湖畔に移り住んだ。サンクチュアリのネイチャーセンターからすぐ近くのところで、現在も当時の家屋が残っている。

その後、農業を生業としながら大正10年に黒田長禮の依頼で琉球全島での採集、大正14年には、山階芳磨の依頼で樺太南部の採集を行なった。その後も両者からの依頼で、北千島、朝鮮半島全域、委任統治領南洋全島(パラオ・ラップ、ミクロネシア、北サイパン、マリアナ諸島、ロット諸島)、台湾、満州、南琉球、と昭和11年まで採集の仕事が続いた。この間に、数万点の標本を採集し、現在、山階鳥類研究所にも数多くの標本がある。新種は16種、新亜種84種、Oriiの学名のつく鳥類は10種、哺乳類は7種におよび、日本およびアジアにおける鳥類の分類学に多大な功績を残した(山階 1948)。

これ以後、折居は海外での採集を行っていないが、昭和34年、35年、36年、37年にウトナイ湖、チラシナイ沼(現在の白鳥湖)、千歳市長都沼(干拓により現在は消滅)での鳥類観察記録が残されている。これは林野庁鳥獣増減調査係からの依頼調査のようなのだが、未発表のまま記録が長い間眠っていた。ウトナイ湖の鳥類についての調査記録としては最も古く、ウトナイ湖の鳥相を把握するには、非常に貴重な記録である。そこで今回折居についての研究者である小山政弘氏が所蔵していた、記録の原本をお借りし発表することとした。

原本は以下に示すとおりである。

1990年10月30日受理

1. ㊦ 日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ、〒059-13 苫小牧市字植苗 150-3

鳥獣増減報告書

林野庁
鳥獣増減調査係御中
5月17日

折居彪二郎

謹啓

御下命の各種の御質問に就ては我が北海道に於て生息せざる者は除き置きました。調査報告用紙の(15)の意見に就ては、一、官庁方面に於て如くに意を用いても狩猟者の一般が狩猟道德の欠けて居る今日、先づ此の方面から直して行く外無之と存じます。

35年度の調査用紙御送付被下澤山到着致しました。報告申し上げます。
△子供等に愛鳥の如何に必要なかを宣伝して。

鳥獣増減報告書

兼ねて林野庁より鳥獣の増減調査の依頼在り、然して本道の猟期前に一回調査す可き様希望在りして、以て即昭和34年9月25日ウツナイ湖（著者注：ウトナイ湖のこと）が此の付近にて最も有望なる視察の場所なる故同所を視察せり。結果左記の通り。

マガモ 3群, 250羽位, 130羽位, 50羽位

カルガモ 3群, 170羽位, 120羽位, 30羽, 10羽

オナガガモ 2群, 80羽位, 40羽位

コガモ 5群, 200羽位

ヨシガモ 120位, 80羽位

オシドリ 7羽

赤頭ヒドリガモ 2群, 150羽位, 70羽位

ハシビロガモ 4, 20

オオバン 2群, 50羽位, 30羽程

アカエリカイツブリ 25羽, 是は群をなさず2羽若くは3, 4羽づつ見る。

ヒシクイ, 秋期は9月20日頃より渡来するも其数少なく, 春季は秋季の数倍自至数十倍がウツナイ湖に来る(10月5日, 数25羽位を見る)。

マガン又同様なり, 1群, 19羽。

10月5日, マガモ上流武藤牧場奥迄視察。茲には各種のカモ類毎日の砲声に驚いて此の張水沼に避難し居る者と見へ, 1群600程の数中マガモ, カルガモ最も多, ヨシガモ, オナガガモ是に次ぎ赤頭ヒドリガモ, コガモ等の混合1居たり。

マガモ 400, カルガモ 150, ヨシガモ 200, オナガガモ 200, 赤頭ヒドリガモ 250, コガモ 200, オシドリ 5, ハシビロガモ 3, 15, オオバン 2, 60, キンクロハジロ 2, 1

10月10日, ヒシクイ150位飛来, 遠浅沼方面に去る。沼に行きしカモ類は猟人のため毎日打立てられ, 少し多分チラシナイ沼に避難したるなる可く南方に1群100位と東方に50位付き居り。中カモは各種を合せて300羽位。同日チラシナイ沼に行き視察す。此の沼は

個人の所有では有るけれども、深く打っても取れぬ故大抵の人は行かず、其故無数のカモ類集合し居、何が何程居るやら分明ならず。唯、マガモ500位とカルガモ200位、其の他中カモは5~600羽居りたり。

10月15日、長都沼午前11時。ヒシクイ40羽程を見。マガモ3群200位、カルガモ4群150羽程を見。中カモは各種合計200羽程を見たり。

オナガガモ 150, ヨシガモ 100, 赤頭ヒドリガモ 70, コガモ 50

近々開墾の結果、各沼の水位低下せるため、従って結氷は他地方の沼より早し。

長都沼視察。千歳各沼の内、此の付近の何れの沼でも鴨は相当居るけれども長都沼は最も多く、春季解氷を待って、茲に集まるガン、ハクチョウ、カモ類はウツナイ沼の約半数位。なお、晩秋季末結氷期までにはガン類も相当数に昇るを見る。

マガモ 150, カルガモ 120, ヨシガモ 80, オナガガモ 150, ヒドリガモ 110,
コガモ 120, 赤頭ヒドリガモ 150, ハシビロガモ 3, 12, ミコアイサ 2, 8

ヒシクイ30羽、北方より飛来す。多分長都沼方面よりならん。本猟期に入りて初の猟日故、四方八方より打立てしたためと考えらる。アジサシ20数羽高く飛来り南に去る。

ハリオアマツバメ数100の集散して空中の虫を飲み居る見たり。

此の頃まだカッコウの残り居れるを見らる。

10月20日、午後2時半、キジバト3羽連れのを見る。以後不見。

ウツナイ湖迄。本日好天、強き霜降りたり。沼にはヒシクイ200数10羽鳴き渡り来たるも、降りず南方に去る。マガモも5、60羽の群遠く飛び居るを見たり。マガモ及びカルガモは初猟当時の半数に下り、中カモも著しく数を減せり。

マガモ 3群180, カルガモ 3群60, オナガガモ 40, ヨシガモ 50, ヒドリガモ
140, コガモ 30位, ハシビロガモ 2, 6羽, キンクロハジロ 2群30, スズガ
モ 1, 5, オオバン 2群100, ミコアイサ 2, 12

10月30日、ヨタカー羽家の前に見へたり。ウツナイ沼、カモは少くなり行きたり。ハクチョウ18羽渡来し、ヒシクイ17羽も見たり。目撃せる者、

マガモ 130羽, カルガモ 100羽2群, ヨシガモ, オナガガモ混合 70, ヒドリガモ
30, コガモ 3, 80, キンクロハジロ 50, ヒドリガモ 70, 3群, オオバン 80,
スズガモ 2, 12, ホシハジロ 3羽, ミコアイサ 3, 12, 3, 18

11月5日、長都沼、新に北方より渡来せる者ふえ。

マガモ 80, カルガモ 50小群, オナガガモ 30, ヨシガモ 25, ヒドリガモ 40,
コガモ 30, キンクロハジロ 2, 60, スズガモ 2, 25, 2, 10, カワアイサ 1,
8, ミコアイサ 2, 14

11月7日

チラシナイ沼視察。カモ少なくなり行きしも茲に集まるカモはいまだ相当見ゆ。

カルガモ 1群10, カワアイサ 15, マガモ 250, ヨシガモ 80, オナガガモ 50,
ヒドリガモ 30, コガモ 20, キンクロハジロ 2, 80, ホシハジロ 2, 18

11月10日

ウツナイ沼、ハクチョウ24羽白ゆ尾長は此の頃に至れば成羽となれり。

ヒシクイ15羽降り居たり。

マガモ 50, オナガガモ 30, ヨシガモ 50, ヒドリガモ 120, コガモ 25, キン

クロハジロ 50, スズガモ 2, 35, ホシハジロ 2, 20, ミコアイサ 1, 8, ホ
オジログモ 2, 10

11月15日

コガモ 10

11月20日

長都沼

マガモ 60, ヨシガモ 20, オナガガモ 20, ヒドリガモ 20, コガモ なし, キン
クロハジロ 2, 50, 此の中にはたぶんホシハジロも居るならん。カワアイサ 2,
30, ミコアイサ 2, 6, ホオジログモ 3, 25

12月1日

チラシナイ沼, カモ少くなり行けり。

マガモ 250, ヒドリガモ 20, キンクロハジロ, ホシハジロ, スズガモ 計150, ホ
オジログモ 3, 25

12月10日

ウツナイ沼. 先日同様ハクチョウ20程, ガンい居らず。

マガモ 150, アイサ 20 (2群), ヨシガモ 20, キンクロハジロ他 50, ホオジロ
ガモ 4, 35

12月20日

本日沼完全に結氷せり。沼口には僅かにアイサ6羽, ホオジログモ20羽居るのみ。ハク
チョウ, 沼の中央結氷せる上に座し居りたるのみ。

零下30度の厳寒に於けるハクチョウの行動であるが, 12月30日結氷せる沼の中央に眠り,
午後5時頃に至れば一斉に飛び上り上流の藻草の生えた処に至り喰む。追々其の数を増し,
2月上旬に至れば数, 100羽以上に達し, 密猟者に追われざれば幾日も其の続きを掘り乍
ら其の処に居るのである。

1月30日

1月下旬に至ればハクチョウ群をなし毎晩河川の上流に向て飛来る。本日も30数羽飛来
れり。本年度は川は完全に結氷せるを以てタカ類は甚だ少く, 唯チュウヒとケアシノスリ
2~3毎日見らる。

2月5日

本日少し暖気にて川の中央氷を打ちこわして進む。番溪内川上流に至る。マガモ50羽,
カワアイサ30, ホオジログモ2, 18, コガモ25羽, スズガモ15~6を見る。

2月15日

寒波来りて美々川千歳郡界以下は全部結氷す。漸く氷を打破りてペンケナイ川に行く。
ハクチョウの掘りし跡沢山在りて, 大なる糞一面点々として氷の上に残り居り。余の舟を
見て8, 90間の所より飛去る物30羽余り。最も外区にはコハクチョウ2羽飛び居たり。マ
ガモは80羽位, カワアイサ30羽, ホオジログモ20羽, コガモ15羽程を見たり。本日美々本
流には美沢の曲り角には数100羽のマガモとハクチョウ40余り居りたり。

2月18日

本日数年来見ざりしコベニヒワ250羽位の一群, 余の家の脇の畑の月見草の雪中に立ち
居の者にたかり居たり。

2月20日

コハクチョウ3を見る。

2月25日

上流数ヶ所に白鷺居たり。マガモ、アイサ、ホオジロガモ2、16、及びコガモ1、12

2月29日

上流視察。マガモ、カワアイサ、ホオジロガモ2、25、コガモ1、10

地勢、地形

太平洋に面する沿岸では根室、釧路を除く地方では先づ此の地方では当沼の端、千歳各沼間ではウツナイ湖が最も多くの水禽類の集まる所である。海岸近くに在る弁天沼もハクチョウ、ガンカモの集合地として知らるも近頃農地開発のため周辺の葭茅等皆蒞取られ、且つ直線の排水溝を設けしたため水域著しく減少せる結果、昔日の半ばに達せぬ位なり。又、東方3キロに在る遠浅沼は各種の水禽相集まるも遠くウツナイ湖に及ばず。西方10キロ上流に在る勇払川谷地には冬季数1,000羽に余るマガモの大集団を見る。夏には此の沿岸にはマガモ、カルガモ、ヨシガモ等の繁殖す物を見らる。猟期になるや各地各河川に銃声起るや急にして蔭れ沼のチラシナイ沼に皆集まる者多数。然し此の沼は、面積約20ヘクタール在る割合に水の流注す量なき故、ウツナイ湖より毎年約10日早く結氷し解氷も又遅る。各河川の内でも多く鴨のつく川は美々川の各川で在り。12月末まで結氷せず、一月末まで上流を除く各河川は結氷す。千歳川主流は氷点下30度に至るまで結氷せず。ウツナイ湖は本年度の12月20日完全に結氷し、唯沼に注ぐ各川の尻で少し水面を現わし居り。是にハクチョウ其他のカモ類が群集し居れり。他に皆上流に去り居り者とも、此の結氷期以後は各川の上流へ小舟に乗て観察する外ないので在る。狩猟者の多くにして各川に出猟した場合は、皆海上に避難し夕暮れを待って河川の上流に帰り来る。

哺乳動物に就て

此の方面の野獣はキツネ、タヌキ、イタチ、各種のノネズミ位の者で、種類は少ないが然も是等の獣類の足跡を確認断定するには降雪在りし日に調査する外はないので、いずれも12月、1月、2月の頃の者で在る。

キツネは15号台風の後急に少なくなり行き、本年度は11月15日はじめて降雪在りて、自家より2里程の道路に沿て歩行せし者一頭を見たるのみ。

タヌキは是も15号台風の以後見当らず、多分毒を食せしネズミを食せるため全滅か。

イタチは前年度の調べによれば例年に比し甚しく少かりしが、昨年度の捕獲数は何程なるや不知るも大界前年度と変わりなからん。日中見かけし者3回。9月25日、10月10日、10月20日。

コエゾイタチは甚だ希乍ら生存す。12月 日、雄猫の捕えた者一頭を入手す。

ウサギ。各種獣類の減少せる中に在って独り繁殖をとげたるはウサギ及び各種のネズミ類で、鳥類に於てはキジバト位の者で在る。

エゾヤチネズミ。是は15号台風後非常の勢で増加繁殖せる者で、是につぎヒメアカネズミ及びドブネズミにして、割合増加せぬと思わるる者にアカネズミが在る。

オオアシトガリネズミ、ジネズミは近年にない位繁殖を遂げ、降雪の在り日には多数の

穴を明けて雪上に出て、又は是を掘りて潜入せる穴を多数に見らる。

昨年度道庁指導部の要請により自家付近で10日位で100頭程の各種のネズミを捕えたが、何分結氷甚しかりしたため、手足ボキンと折れるには閉口せり。

ネズミ害について昨昭和34年度のネズミ害は大正13年以來のことである。其の面積は実に11,000ヘクタールの届出が在た。若木320万本が食われ、損害実に3,000万円に及ぶ。昨春の被害面積22,000ヘクタールで本数は7万と同一程度の者と推定される。秋期にネズミ害発生した例はなかった由、是等は主としてヤチネズミ、アカネズミ、ヒメアカネズミ及びノウサギによる者である。

届出のない小面積の物は尚右の数量に近い者であろうと思われる。

野ウサギの猟獲 11月5日2匹、11月7日3匹、11月17日、11月23日、12月10日、12月17日、12月27日、1月7日2匹、1月14日1匹、2月5日2匹

キツネ

昭和34年11月15日1匹

此の方面の野獣は、キツネ、タヌキ、イタチ、各種のネズミ類であるが、是等の獣類の数を確認するには其の足跡を見て確定断定するには降雪の在りし日に調査する外はないので何れの表も12月、1月、2月の者である。

キツネは15号台風(1954. 9. 26)の後急に少なくなり行き、本年度は11月15日初めて一頭の足跡を見たるのみ。

タヌキは是も15号台風のため森林に大被害を受け、木材の防腐のため強力なる薬を空より散布したためネズミ類の被害を受けたる者を食せる者か、ほとんど一頭も見ず、全滅せるか。

エゾノウサギ

昭和34年11月16日3匹、11月28日4匹、12月5日2匹、12月7日3匹、12月17日2匹、12月26日2匹、昭和35年1月7日2匹、1月14日1匹、2月5日2匹

ノウサギの観察は銃を携帯して行かなければ張合なくて出来ない。其故この表に現われたる数、銃獲の数で在って逸された者も在り。唯3時間位の猟の結果である。

然し、近時ノウサギの害敵たるキツネ、タヌキの居なくなったため、著しく繁殖を遂げた者である。

エゾアカネズミ

昭和34年12月25日1匹、12月27日2匹、12月28日2匹

エゾハツカネズミ

昭和34年12月21日2匹、12月25日2匹、12月26日4匹

エゾヤチネズミ

昭和34年12月21日6匹、12月22日8匹、12月23日6匹、12月25日2匹、12月27日2匹、12月28日2匹、12月30日2匹

イタチ

昭和34年9月25日1匹、10月10日1匹、10月20日1匹

コエゾイタチ（著者注：イイズナ）

12月20日 1匹

キネズミ

10月20日 1匹, 11月 5日 2匹, 11月25日 1匹, 11月30日 1匹

イタチは一昨年の捕獲数は例年に比べ少かりしも本年度も又少ない様子では在るが、道庁の統計は未発表で在る故不判明。

コエゾイタチ. 此の種の生存は細々乍ら雑木林中又は深き草原地帯に見出される。

キネズミは大形樹林中に棲む。然し近年老木伐採結果少なくなり行けり。

エゾリス

昭和34年10月 5日 2匹, 11月 6日 1匹, 11月28日 2匹

シマリス

昭和34年10月 1日 4匹

リスは近年樹林が伐採され、著しく其の棲家が狭められしため少なくなり行けり。此の獣は朝早くなければ11月以後は日中見るを得ず。

シマリスは自家椎茸林に棲んで居た者で在る。

オオアシトガリネズミ

昭和34年12月16日 4匹, 12月28日 3匹, 12月29日 4匹

エゾトガリネズミ

昭和34年12月18日 4匹, 12月25日 2匹, 12月27日 2匹, 12月28日 2匹, 12月29日 3匹

エゾヒメアカネズミ

昭和34年12月21日 3匹, 12月22日 4匹, 12月27日 2匹, 12月28日 2匹, 12月29日 2匹,
昭和35年 1月 3日 2匹

エゾドブネズミ

昭和34年12月27日 2匹, 昭和35年 1月 3日 2匹

北海道庁の林務指導部の依頼により12月16日より小形トラップを自家付近に置く。100頭余りを採集したるも他のネズミ類により食害され標本に出来た者表記の通り。

エゾノウサギと共に近来になき程大繁殖をとげ、農家に入り来るネズミ類驚く程多数。是を捕獲駆除するには一大労力を要す。

昔はヒメアカネズミよりはアカネズミの方が多かりしも此の頃はアカネズミ少くなれり。

ネズミ害に就て昨34年度のネズミ害は大正13年以来の事で在る。其の面積は実に11,000ヘクタールの届出在り。若木320万本が被害を蒙り損害実に3,000万円に及ぶ。

昨春の被害面積22,000ヘクタールにて本数は7万と同一程度の者と推定される。秋季にネズミ害発生した例は且つてなかった由、是等は主としてヤチネズミを主としてアカネズミ、ヒメアカネズミ等、及びウサギによるものである。届出のない少面積の物は尚右の数量に達するものと推定される。

エゾノウサギ

昭和35年10月10日 1匹, 11月25日 2匹, 12月 5日 2匹（ウ、著者注：ウトナイ湖）、12月25日 3匹（チ、著者注：チラシナイ沼）、昭和36年 1月10日 5匹（ウ）、 2月 5日 4匹（ウ）、 2月20日 3匹（ウ）

此のウサギの表は自家の付近のみ追跡したる者で、至る所に多し。

オオアシトガリネズミ

昭和35年10月10日 3匹, 10月25日 4匹, 11月 5日 6匹, 12月10日 2匹

昨年と同程度の面積を有する林野並びに河畔等にトラップ（小形捕鼠器）を置いて捕獲せる者, 以下同じ.

エゾハツカネズミ

昭和35年11月25日 2匹, 12月10日 1匹, 1月10日 1匹, 1月20日 2匹

エゾアカネズミ

昭和35年10月10日 2匹, 10月25日 1匹, 11月 5日 1匹, 12月10日 1匹

ヤチネズミ

昭和35年10月10日 2匹, 10月25日 4匹, 11月10日 5匹, 12月20日 6匹, 1月10日 5匹,
1月20日 7匹

エゾリス

昭和35年10月20日 1匹, 11月10日 2匹

シマリス

昭和35年 9月25日 2匹, 10月10日 2匹, 11月 5日 1匹

キツネ

昭和35年12月17日 1匹, 2月 5日 1匹

自分調査区域に希なり.

エゾタヌキ

昭和35年, 今年度はほとんど見ず.

イタチ

昭和35年10月 5日 1匹, 10月20日 1匹, 11月 5日 1匹, 12月15日 1匹

エゾノウサギ

昭和35年10月20日 2匹, 11月25日 3匹, 12月 7日 2匹, 12月25日 3匹, 昭和36年 1月 8日 2匹, 1月14日 1匹, 2月 5日 1匹

此のノウサギの表は自家付近のみにて追い出したる者で, 此の付近には少しも減って居らず.

オオアシトガリネズミ (ウ)

昭和36年10月10日 2匹, 10月25日 2匹, 11月 5日 1匹, 12月 1日 1匹

エゾトガリネズミ

昭和36年10月10日 2匹, 10月25日 1匹, 11月 5日 1匹, 12月 1日 1匹

エゾヒメアカネズミ (ウ)

昭和36年10月10日 2匹, 10月25日 1匹, 11月 5日 1匹, 12月10日 3匹

エゾアカネズミ (ウ)

昭和36年10月10日 1匹, 10月25日 1匹, 11月 5日 1匹, 12月10日 2匹, 12月15日 2匹

エゾヒメアカネズミより少くなれり.

エゾハツカネズミ

昭和36年11月25日 2匹, 12月10日 1匹, 昭和37年 1月10日 1匹, 1月20日 1匹

エゾヤチネズミ

昭和36年10月10日 2匹, 10月25日 1匹, 11月10日 2匹, 12月20日 3匹, 昭和37年 1月10

日1匹, 1月20日1匹

ネズミ類中最も多い方なるも多少少なくなれり.

エゾリス

昭和36年10月20日1匹, 11月10日1匹, 11月5日1匹

森林伐採の結果, 少なくなり行けり.

シマリス(ウ)

昭和36年9月26日2匹, 10月10日1匹, 11月5日1匹

食物の都合か未だ存在.

キツネ

昭和36年 此の地方には見当らず.

エゾタヌキ

昭和36年 此の地方一向に見当らず.

イタチ(ウ)

昭和36年10月5日1匹, 10月20日1匹, 12月1日1匹, 12月15日1匹

禁猟になりたるも未だ多くを見ず.

エゾノウサギ(ウ)

昭和36年10月20日1匹, 11月25日1匹, 12月7日2匹, 12月25日3匹, 昭和37年1月10日2匹, 2月5日1匹

(昭和34年9月25日～昭和35年2月15日)

太平洋に面する沿岸では当沼の端, 千歳間ではウツナイ沼が最も多くの水禽類の集合する所にして, 海岸近くに在る弁天沼は各種の水禽集合地なり. 然し近年農地開拓の結果, 直線の排水溝を設けたるため著しく水位低下し昔日の半に達し得ぬ位なり. 東方3キロにして遠浅沼在るもウツナイ沼には遠く及ばず. 西方10キロにして勇振川の上の一大谷湿地には冬季数1,000羽に達するマガモの付場が在る. 夏季マガモ, カルガモ及びヨシガモの繁殖地で在る.

銃声起るや急にして陸沼なるチラシナイ沼に避難し来る者, 数知れず. 此の沼は今個人所有なれど水深くして舟も無く打つ者は取れない故, 余り人が行かない. 面積にして20数ヘクタールに過ぎぬけれども此の沼に注入する水は余りに少ない故, ウツナイ沼より10日位早く毎年結氷する. 解氷も又遅れる. 各河川の内て常時カモの付き居る川は美々川と是に注ぐ各支流で上流は年中結氷せず. 美々川下流でも12月まで結氷せず.

千歳川主流の上流は令下30度は結氷せず.

ウツナイ沼は今年度は12月20日より完全に結氷す. 唯此の沼に注入する川口近くは大低の場合解氷し水面を現わし, 是に集まる水禽は, ハクチョウ, カモ類は相当の数に昇る. 結氷以来, 川の上流に去り, 又は, 好天には海に浮ぶ. 夜間は皆上流目掛けて飛来する.

鳥類報告の数は必ずしも正確で在るのではなく, 其の前後の数で在る事を御存知願ひ度く何となりしむ. 群居遊泳する場合は前後に歩き廻り居り, 正確に算定き者で在る故.

(昭和35年9月26日～36年3月5日)

ウツナイ湖は昨年来人の往来繁り西端にはウツナイ遊園地の造成される在り. 且つ岸近

くにユースホテル（著者注：ユースホステル）の建設され、貸ボートは数10双在り。風波のなき時は、毎日出遊する人多いために今日まで夏季は悠々たる水鳥の安息所で在ったが、今や全く変わり行き一寸も安心ならぬ所となりたり。然し広い場所故、其の所此の所と水鳥の遊泳し居れども、此の1、2年前に比し変れり。又、カモ、其の他の水鳥の巢が在た所の美々川は其の沿岸に葭生する葭は皆刈り取られ、彼等水ガモ、陰る由もなき程で在る故、此の沿岸に巢を造て繁殖せる彼等も移動せざるを得ざる状態に付近なれり。其の他の草の茂れる場所移動する者と見へ勇拂郡の此の付近、田舎では今年位カモの多い年はないと申したり。とかく昨年度の約半数近いまで少なくなり行けり。

（昭和34年9月25日～11月10日・カルガモ）

カルガモは3月彼岸前後に來り11月半ばにはほとんど去る。

（昭和35年9月26日～11月20日・カルガモ）

本種もマガモ同様ウトナイ湖付近には甚しく少なくなり行けるも、葭の茂れる川辺には例年より多く見らる。

（昭和35年9月26日～36年3月10日・コガモ）

12月に入りてコガモを見受ける事は甚だ希で在る。

（昭和35年9月26日～11月5日・オオバン）

近年河岸の葭は皆刈取らるを以て河川の沿線に営巢せず、甚だ少なくなり行けり。

（昭和34年10月30日～35年2月29日・ハクチョウ）

ハクチョウは昨年度に比し陪數來たり。

（昭和34年10月5日～11月10日・ヒシクイ）

ヒシクイ及びマガンは秋季渡來する者少、春季甚だ多し。

（昭和34年10月10日～10月20日・オオジシギ）

オオジシギは此の方面に産すれども何れにか去り、残る者少し。

（昭和35年9月26日～10月10日・タシギ）

此の地方に繁殖するも其の時季を過れば小藪又は草の深い所に潜み、犬に非れば発見を得ず。

10月10日以降は此の者を見ず。

此の調査地区内にはタシギの求食に適當なる場所は至て少し、然れども石狩方面の良田の在る所には十二月初旬に至るまで相當に此の者を見らる。

海岸線鷓川まで行けば付場在り。

（昭和36年8月30日～9月20日・ヒバリシギ）

此の者は麦の花咲き其が落下する頃には多數の虫が花や葉に付着したる故、浮葉の上に留り乍ら是を食す。ヒシの在る沼には必ず此の頃群集す。

シギ・チドリ等は海岸の原野で観測す。

考 察

表1に折居が行なった鳥獸増減調査の結果をまとめた。

折居の調査は、小舟をウトナイ湖に出し双眼鏡（ツァイス製4倍）による確認であったという（折居辰広 私信）。よって、現在、ウトナイ湖サンクチュアリで行なっている調査（20倍の望遠鏡の使用と4か所からの同時カウント）結果と単純に比較できないが、以下

の点が興味深い。

まず、オオバンであるが、1959年10月20日の100羽を最高に、1960年、1961年と、毎年数10羽の記録がある。ところが、サンクチュアリがオープンしてからの記録は、1981年8月15日-19日、9月11、13日、10月23日、1982年11月13日、1983年4月6日、6月17日、1986年11月20日、1987年4月1日、1988年10月9日、1989年6月18日とほぼ毎年あるが、いずれも1羽のみの観察である。なぜ減少したかはよくわからないが、折居は報告書の中で「近年河岸の葎は皆刈取らるを以て河川の沿線に営巣せず、甚だ少なくなり行けり」と述べている。美々川沿いのヨシは草ぶき屋根用にかなり刈りとられていたようだが、現在はほとんどそうしたことはない。これは需要が減少したことと、美々川流域を北海道自然環境保全地域に指定する動きとともに、この一帯の保護が叫ばれているためと思われる。一度生息環境が破壊され生息できなくなると、その後植生が復元しても鳥類はなかなか戻ってこないということかもしれない。

次にオシドリであるが、1960年9月26日の7羽を最高に数羽程度だが1954年と1961年にも確認されている。サンクチュアリがオープンしてからの記録は、1982年6月21日雄1羽、1983年4月3日1羽、4月7日雄2羽雌1羽、1985年3月24日雄1羽、1989年10月1日2羽である。折居の記録もそう多くないが比較すると減少がみられる。オシドリは北海道では夏鳥として各地域で繁殖している。山間部の溪流や林に囲まれた池や湖を好むオシドリにとって、ヨシ、ハンノキなどに囲まれる開けた広い湖であるウトナイ湖は昔から適した生息地ではなかったのではないかと思う。しかし、戦前は太いコナラ、ミズナラの林がハンノキ林の周辺にあったとのことなので、繁殖もしていたかもしれない。

アカエリカイツブリは、1959年9月25日の記録で25羽というのがある。サンクチュアリオープン以来繁殖を確認しているが、せいぜい1-2つがいぐらいである。そのうえ、1988年からは、繁殖期にほとんど姿をみなくなり繁殖していないと思われる。また、個体数も、1989年度のウトナイ湖定期調査では最大個体数は1羽であった。折居の調査は秋のものであり繁殖についての記述はないが、1987年までは私たちも繁殖を確認しており、その当時から繁殖していたと思われる。しかし、その後の個体数の減少、および繁殖しなくなった理由は何なのだろう。1つにはもともとウトナイ湖あたりがアカエリカイツブリの繁殖の南限にあたり、気候的に不適當なためかもしれない。また、オオバンのところで折居が述べているようにヨシの刈りとりなど人為的な影響かもしれない。そして、1988年から繁殖を確認できないのはコブハクチョウの繁殖が影響していることも考えられる。いずれにしても断定的なことはわからない。

折居の調査では、カモ類は、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、コガモ、ハシビロガモ、オシドリ、キンクロハジロ、スズガモ、ホシハジロ、ホオジロガモ、カワアイサ、ミコアイサの計14種が確認されている。現在は、これらに加え、トモエガモ、オカヨシガモ、アメリカヒドリ、シマアジ、オオホシハジロ、ウミアイサの記録があり20種の確認がされている。1959年9月から1962年3月までの各種の観察総数と優占度をみると、マガモ2,585羽(26%)、コガモ1,878羽(19%)、ヒドリガモ1,427羽(14%)、カルガモ985羽(10%)とこれらで約7割を占めている。1989年9月-12月のウトナイ湖サンクチュアリによる調査の優占度はマガモ52%、コガモ3%、ヒドリガモ16%、カルガモ5%であった。単純に比較はできないが、昔からマガモが最も優占度が高かったようだ

表1. 鳥獣増減調査結果（折居の調査用紙の記録を筆者がまとめたもの）.

その1

ウトナイ湖

年月日	マガモ	カルガモ	オナガガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	コガモ	ハシビロガモ	オオバン	オシドリ	キンクロハジロ	スズガモ	ホシハジロ	ホオジロガモ	カワアイサ	ミコアイサ	オオハクチョウ	コハクチョウ	ヒシクイ	マガン	タシギ	ヤマシギ	オオジシギ
34 9 25	450	170	80	200	150	200	20	50	7													
10 05	400	150			250	200	15	60		2								25				
10 10						120				11			25									
10 15						70																
10 20	180	60	40	50	100	70	6	100		5					12							180
10 30	130	100	50	30	70	80		80							18							17
11 05															14							
11 10	50		30	50	20	25				100	35				8							15
12 01				5									5									
12 10													10									
12 20													35									
12 30													20									
35 1 05																						
1 10																						
1 20																						
2 05																						
2 10																						
2 15																						
2 20																						
9 26	180	130	70	150	160	230	12	60	7	2												
10 05	150	100			200	200	10	50	5	6												
10 10									3	15												
10 15						150				25												
10 20	190	60	40	80	120	130	6	90							8							
10 30	150	90	30	50	100	80		80							15							
11 05																						
11 07																						
11 10	5				30	40						10										
11 15																						
11 20		2																				
11 30																						
12 01				7																		
12 05																						
12 10																						
12 15				2	3	3																
12 20																						
12 26																						
12 30																						
36 1 05	40																					
1 10																						
1 15	50																					
1 20																						
1 30																						
2 05													15		7							

表1. 続き.

その2

ウトナイ湖

年月日	マガモ	カルガモ	オナガガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	コガモ	ハシビロガモ	オオバン	オシドリ	キンクロハジロ	スズガモ	ホシロ	ホオジロガモ	カワアイサ	ミコアイサ	オオハクチョウ	コハクチョウ	ヒシクイ	マガン	タシギ	ヤマシギ	オオジシギ																						
36 2 10	180		50	30		25	3			60		4	20	40	4	60																												
2 15																																												
2 20																								15	45		80																	
2 25																								27																				
2 30	110	45	25	50	55	70	4	30	5	5					3	120		80																										
3 10																																		17										
3 12																																												
9 25																																												
9 26																																												
10 01																																												
10 05																		70	30		65	65	75	5	25	4	6	3																
10 10																										2	8	3																
10 15																							65				20																	
10 20																		50	20	15	25	45	40		25			10		4	7													
10 30	45	25	10	20	35	25		28						12																														
11 05	40				15	15				30	16		2	3				12	40																									
11 07																																												
11 10																																												
11 15																																												
11 20																								3																				
11 30																																												
12 01																										3																		
12 05																																3	5											
12 10																												5																
12 15																										2	2	2																
12 17				1																																								
12 20	30																																											
37 1 05	25																																											
1 17	60																																											
1 20																																												
1 30																																												
2 01																																												
2 05																																												
2 10																																												
2 15																																												
2 20																																												
2 25																																												
2 30																																												
3 01																																												
3 07					7																																							
3 10						20																																						
3 12																																												

表1. 続き.

テラシナイ沼 (現在の白鳥湖)

その3

年月日	マガモ	カルガモ	オナガガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	コガモ	オオバン	キンクロハジロ	ホシハジロ	カワアイサ	ミコアイサ
34 10 05			200								
10 10	500	200		250		150	50				5
10 30									3		
11 07	150		50	80	30	20		80		15	
11 10		10									
12 01	250		25								
12 10						10					
35 10 05			160	180							
10 10	200	140	150	200					3		6
10 25											
11 07	150				50	50					
11 10		10	30	50							
12 01	250		20							13	
12 10	300										
36 10 05			50								
10 10	60	45	45						3		4
10 25											
11 10		10	12								
12 01	120		1								6
12 10	150										

長都沼 (千歳市, 現在は無い)

その4

年月日	マガモ	カルガモ	オナガガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	コガモ	ハシビロガモ	オオバン	キンクロキジロ	スズガモ	ホシハジロ	ホオジロガモ	カワアイサ	ミコアイサ	ヒシクイ
34 10 15	200	150	150	100	150			12	60					8	30
10 20										30					
11 05	80	50	30	25	40	30				60	25	10			
11 15						15							30		
11 20	60		20	20	20									7	45
35 10 15	300	150	160	150	120		8	50							
10 20															
11 05	120	50	25	30	50	70				35	25			13	
11 10													20		
11 15						30									
11 20	50		25	30	25				60	40	15	20	18	14	
36 10 15	70	40	40	50	40			40						5	28
10 20										25					
11 05	75	18	8	15	20	45				15				10	
11 10													8		
11 15						15									
11 20	40		20	20	10				40	18	13	15	9	12	

が近年その傾向が強いようだ。ヒドリガモの優占度はそれほど変化はないが、コガモ、カルガモとも低下している。

水鳥ではないが、1960年2月18日のメモに「本日数年来見ざりしコベニヒワ250羽位の一群、余の家の脇の畑の月見草の雪中に立ちい」とある。ウトナイ湖サンクチュアリ(1990)では、コベニヒワは未確認であるが、ベニヒワは、1982年から少数ではあるが毎年観察されている。折居にとっては、ベニヒワとコベニヒワの識別は可能であったと思われるが、250羽すべてがコベニヒワであったかどうかは定かではない。苫小牧で確認された鳥(日本野鳥の会苫小牧支部 1985)の中にコベニヒワは入っていないので、貴重な記録である。その他の鳥類については、数の増減などについて意見を述べるのはむずかしい。

折居の記録とサンクチュアリがオープンするまでの間にいくつかの調査がされており、それらとの比較でよりくわしい変化がつかめるかもしれないが、これについては今後の課題としたい。鳥類以外でキツネやタヌキなど、その個体数の変化は興味深いが、これらについての考察も今後の課題としたい。

最後に今回の「鳥獣増減報告書」とは関係ないが、折居が海外へ採集に行ったさいの日誌が多数残されている。記録としても紀行文としても非常に価値のあると思われるが、現在は苫小牧市中央図書館に手書きの原本のまま収蔵されている。この日誌を活字にし、出版されることを関係者に強く望むものである。

謝 辞

小山政弘氏には「鳥獣増減報告書」の原本をお借りするとともに貴重なご助言をいただき、折居彪二郎のご子息である折居辰広氏には様々なお話を聞かせていただいた。また、サンクチュアリのボランティアの鈴木要氏、大村宏氏にはワープロ打ちなどをお手伝いいただいた。合わせて感謝申し上げる。

引用文献

- 小山政弘. 1986. 折居彪二郎小伝. 郷土の研究 (5): 15-47.
 日本野鳥の会苫小牧支部. 1985. 苫小牧の野鳥, pp. 63-67. 日本野鳥の会苫小牧支部, 苫小牧.
 ウトナイ湖サンクチュアリ. 1990. ウトナイ湖サンクチュアリ鳥類調査. ウトナイ湖サンクチュアリ
 年次報告書. ウトナイ湖サンクチュアリ, 苫小牧.
 山階芳麿. 1948. 採集者折居彪二郎君の業績. 鳥 12: 47-53.

Orii's records about birds and animals of Utonai

Koji Ohata¹

Hyojiro Orii, a famous collector in the world at the time, lived at Lake Utonai in Tomakomai, Hokkaido. He made censuses of birds and animals at Lake Utonai in 1959-62. I found that his records made a comparison of old and recent records of birds possible. Populations of the Common Coot *Fulica atra*, Mandarin Duck *Aix galericulate*, and Red-necked Grebe *Podiceps grisegena* decreased. The cause of the decrease is unknown, but might be due to cutting of plants near the river. His records included the

Hoary Redpoll *Acanthis hornemanni* but this record is very rare.

1. Lake Utonai Sanctuary. 150-3 Uenae, Tomakomai, Hokkaido 059-13, Japan